

公表

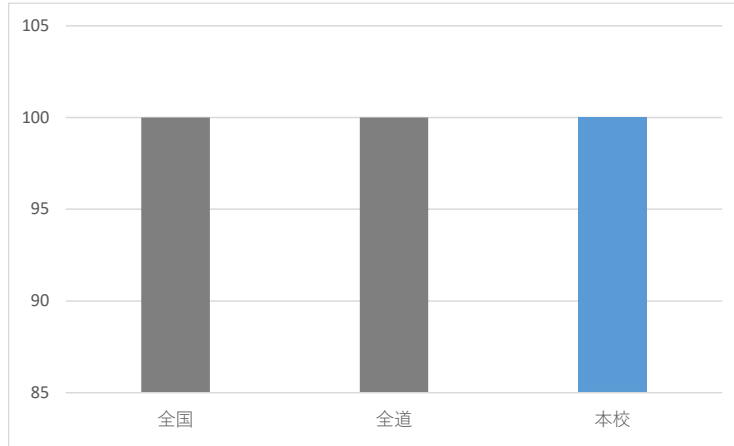
令和6年度全国学力・学習状況調査の本校の状況

令和6年4月18日（木）、全国学力・学習状況調査が3年生で実施され、先日結果が本校に届きましたので、結果の概要をお知らせいたします。

- 調査の目的**
- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
 - ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
 - ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

下のグラフは、全国の平均正答率を100とした時の北海道と本校の正答率を表したものです。この調査結果は学力の特定の一部分であること、また、今年の4月18日時点のものであることをご承知お願います。

【国語】国語の平均正答率は、全国を上回りました。



【国語の結果】

- 2**様々な形の葉ついて論ずる文を読んで答える設問で、文章と図とを結びつけ、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる問いは、**10P以上全国正答率を上回った。**
- 文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる問い（満ち足りた）は、**19P以上全国正答率を上回った。**
- 書写について行書の特徴を理解しているかどうかをみる問いは、**18P以上全国正答率を上回った。**
- ▲**1**【フィルターバブル現象の資料】と【話し合いの一部】を読んで答える設問で、意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問いは、**14P以上全国正答率を下回った。**
- ▲**2**様々な形の葉ついて論ずる文を読んで答える設問で、文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることができるかどうかをみる問いは、**11P以上全国正答率を下回った。**
- ▲**3**「体験をもとに、身近なものを登場人物にした物語を書く」を題材にした設問で、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる問いは、**19P以上全国正答率を下回った。**

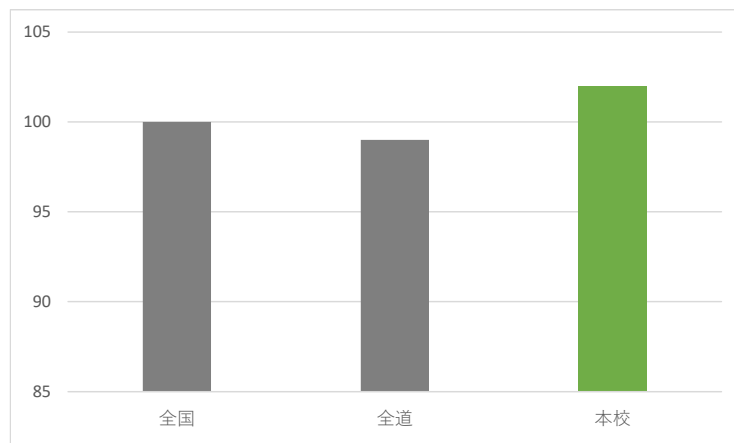
【国語に関わる生徒質問紙の項目から】

- ▲「国語の勉強は好きだ」と答えた割合は、全国値よりも13P以上高いが、二極化している。
- ▲「国語の勉強は大切だ」「国語の授業内容はよく分かる」「国語の授業で学習したことは将来社会に出たときに役に立つと思う」と答えた割合は、全国値よりも低い。

○特に、漢字を正しく書くことと書写の特徴を理解していることについての正答率は、全国を大きく上回りました。

▲表現を工夫して物語の最後の場面を書く記述問題では、無回答率が全国を14P以上上回りました。

【数学】数学の平均正答率は、全国を上回りました。



【数学の結果】

- 2**「 $6x+2y=1$ 」をyについて解く問題は、**18P以上全国正答率を上回った。**
- 4**一次関数「 $y=ax+b$ 」について、 $a=1$ 、 $b=1$ のときのグラフに対して、bの値を変えずにaの値を大きくしたときのグラフを選ぶ問題は、**22P以上全国正答率を上回った。**
- 5**2枚の10円硬貨を同時に投げ2枚とも裏が出る確率を求める問題は、**15P以上全国正答率を上回った。**
- 9**点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBを作るとき $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の大きさで言えることの説明として正しいものを選ぶ問題は、**20P以上全国正答率を上回った。**
- ▲**7**5つの箱ひげ図を比較して主張の正当性を説明する問題は、**14P以上全国正答率を下回った。**
- ▲**7**データの分布から四分位範囲について読み取れるを選ぶ問題は、**13P以上全国正答率を下回った。**

【数学に関わる生徒質問紙の項目から】

- 「数学の勉強は好きだ」、「数学の勉強は大切だ」「数学の授業で学習したことは将来社会に出たときに役に立つと思う」「普段の生活の中で活用できないか考える」と答えた割合は、全国値よりも高い。
- ▲「数学の授業内容はよくわかる」と答えた割合は、全国値よりも3P以上高いが、二極化している。

○関数の領域として出題された設問では、4問全て全国正答率を上回りました。

▲**7**車型ロボットについての設問では、出題された3問とも全国正答率を下回ったことから、データの活用の領域に課題がみられました。

【生徒質問紙より】

全国値よりも高い値で、望ましい傾向にあると判断される項目

- 毎日同じくらいの時刻に寝起きている。
- 携帯電話やスマホやPCの使い方について家の人との約束を守っている。
- 健康に過ごすために学んだことを普段の生活に役立てている。
- 自分にはよいところがあると思う。
- 将来の夢や目標を持っている。
- 人が困っているときは進んで助けている。
- 困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。
- 人の役に立つ人間になりたいと思う。
- 学校に行くのは楽しいと思う。
- 自分と違う意見について考えるの楽しいと思う。
- 友達関係に満足している。
- 普段の生活の中で幸せな気持ちになることがある。
- わからないことや詳しく知りたいことがあったら自分で学び方を考え工夫する。
- 学習内容は分かった点やよく分からなかった点を見直し次の学習につなげている。
- 先生は、理解していないところについて分かるまで教えてくれる。

全国値と比較して改善が必要と判断される項目

- ▲普段テレビゲーム（スマホ等ゲームを含む）を2時間以上している、SNSや動画視聴をしている→全国値より7P~12P程度高い。
- ▲普段2時間以上勉強している→全国値より30P以上低い。
- ▲学校が休みの日に2時間以上勉強している→全国値より23P以上低い。
- ▲週に1度は新聞を読む→全国値よりも7P以上低い。

全国値と比較して二極化がみられると判断される項目

- ▲朝食を毎日食べている→87%以上しているが二極化している。
- ▲授業以外でタブレットPC等のICT機器を勉強に使う→二極化している。
- ▲先生は良いところを認めてくれている→全国値より5P程度高いが二極化している。
- ▲いじめはどんな理由があってもいけない→全国値より4P程度高いが二極化している。
- ▲地域や社会をよくするために何かしたい→全国値より5P程度高いが二極化している。
- ▲数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える→二極化している。

【分析】国語と数学の結果では、4月の実施後に自校で「自校採点」を行い、分析を進めた上で速やかに授業改善や個々の解き直しに取り組みました。今後も、学力学習状況調査で明らかになった課題を共有し学校全体で解決を進めるとともに、本時のねらいを明確に見定めた授業、知識やアイデアを共有する対話・協働の場面のある授業、ICTを効果的に活用する授業など、統一した日常授業の改善に取り組んでいきます。生徒質問紙調査の結果では、自分には良いところがあると自覚し、将来の夢を持ち、人が困っているときには助け、人の役に立ちたいと願い、友だち関係に満足している生徒の様子が浮かび、望ましい傾向として挙げられます。一方、今後の改善が必要と考えられることとして、家庭での長時間にわたるゲームや動画視聴をしている生活リズムを見つめ直す、普段も休みの日もどちらも家庭学習の時間をしっかり確保して取り組むなどが挙げられます。また、二極化がみられる項目には、学校とご家庭とで課題を共有して、生徒一人一人に応じた手立てを進めていく必要があります。ご家庭におかれましては、お子さんの家庭学習習慣を確実に定着させるとともに、必要に応じた日常の生活リズムの見つめ直しや改善を進めていただきますようお願いいたします。